平成28年度 第2回 向日市国民健康保険運営協議会会議録

1 日 時	平成28年11月21日(月) 午後2時～4時
2 場 所	向日市役所 大会議室
1 出席委員	楠本会長、河合副会長、香本委員、梅地委員、堀委員、山口委員、中川委員、森川委員、大島委員、高橋委員、山本(哲)委員、山本(加)委員(12名)
4 欠席委員	芝田委員、鈴木委員、森田委員(3名)
5 傍聴者	4名
6 議 題	(1) 標準保険料の試算結果について
(2) 平成27年度における保険料収入不足額について
(3) 今後の保険料のあり方について
(4) その他

議事(要約)

- 1 市長あいさつ
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 議題

(1) 標準保険料の試算結果について

<事務局からの説明>

- ・新委員に平成30年度からの国保の広域化についての説明
- ・京都府の試算結果が未だ公表されていないため、本日は府内の平均的な医療費と保険料から導いた仮の数字を保険料収入不足額として想定したうえで、議論していただきたい。

<委員からの意見>

- ・広域化によって、一般会計からの法定外繰入金心配はなくなるか。
- ・保険者努力支援制度の評価は都道府県が行うのか。どれくらいの金額が入ってくるのか。
- ・評価ではどのように数値化されるのか。前倒し分の具体的な内容や目標はでているか。
- ・特定健診を受けたら税金が使われるものだと思い、今まで受けていなかった。受診率が補助金の指標となっていると知り、今年度は受けた。
- ・健診受診者と、診療の一環で血液検査を受けている人にかかる医療費の差はあるか。

(2) 平成27年度における保険料収入不足額について

<事務局からの説明>

- ・「赤字を解消し、国保財政の健全化を図るために、仮の数字として、1億3,000万円分の保険料の改定が必要である」という想定で議論していただく。
- ・1億3,000万円は、府下15市の平均保険料85,624円が適正な水準であると仮定し、本市の平成27年度の1人あたり医療費が府下15市平均と比較すると約8%高いことから、平均の保険料より8%高い92,599円をもとに、本市の平成27年度の1人あたり

保険料 82,416 円との差額 10,813 円を不足額とし、被保険者数の約 13,000 人を掛けた数字（1 億 3,528 万円）とした。また、平成 27 年度における国保会計全体の赤字額も約 1 億 3,000 万円だった。

<委員からの意見>

- ・向日市の一人当たり医療費は府下で何番目に高いか。また、それはなぜか。
- ・医療費の中には、どんな疾患が多いか。
- ・向日市は高齢者の割合が高いか。長岡京市と比較するとどうか。
- ・洛西口のあたりは、若い人が増えているか。

(3) 今後の保険料のあり方について

<事務局からの説明>

- ・1 億 3,000 万円の改定による所得別の世帯あたり上昇額
 - 基礎控除後（33 万円控除）の所得が 50 万円未満の世帯が全世帯の 40%以上を占めるが、保険料の軽減措置があるため、保険料改定の影響は限定的である。
 - 所得 150 万円を超える世帯については、改定による影響が所得に応じて表れる。
 - 所得 600 万円以上の世帯は、保険料を上げることによって、賦課限度額に達するため、上昇幅が制限される世帯がある。
 - 合計 8,710 世帯で平均した場合は、1,000 万円の改定で、+ 1,148 円（年額）。1 億 3,000 万円の改定で+ 14,889 円（年額）となり、改定の規模（改定率）としては、12.49%となる。
- ・他市の改定状況
 - 想定した 12.49%に近い改定を平成 27 年度に一気に行っている市がある。
 - 段階的な改定の例としては、合計約 8%の改定を 3 年間（平成 25～27 年度）で、また別の市では、約 15%の改定を 3 年間（平成 25～27 年度）で行っている。
- ・保険料を一気に改定した場合と、段階的に改定した場合の財政状況イメージ
 - 保険料は毎年、平成 27 年度と同じ額が必要であると仮定した。平成 30 年度からは 1,700 億円の公費拡充により、必要額が平成 27 年度より少なくなる。また、平成 28 年度からは、平成 26 年度に京都府から借りた約 2 億円の返済が平成 32 年度までの 5 年間あるため、毎年 4,000 万円が保険料の必要額に上乗せされる。
 - 平成 29 年度から段階的に保険料水準を引き上げた場合は、一気に改定した場合と比べると、黒字に転じる時期が遅く H27 からの赤字部分を後ろの年度でゆっくり返していくイメージとなる。

<委員からの意見>

- ・今回のシミュレーションで、所得割、均等割、平等割はどのような設定で行ったか。
- ・平成 29 年度から前倒すとすれば、年度途中から増えたりもするのか。
- ・人口当たりの医師数が違えば、前提も違うので同じようには比較できないかもしれないが、他市で保険料を上げたときはどうだったかなどのデータがあれば参考になる。
- ・市の総合計画など、未来の向日市の姿は反映されているか。
- ・保険料が高くても安くても、支払わなければならないものと思っている。都道府県が

保険者となり、市ではどうにもならない部分もあるだろうから、なおさら仕方がないことだと思う。

- 値上げの必要があるなら徐々に行っていただきたい。
- 市では医療費通知は年何回送っているか。以前の社会保険では年1回だった。そのあたりの削減も考えていただきたい。
- 値上げするなら、段階的に上げていく方が良いと思う。
- 所得割、均等割、平等割が50：35：15であることに疑問があるが、これは決まったものか。
- 値上げは仕方がないと思うが、被保険者からは不満が出ると思う。徴収員の方に聞くと、今でも大変らしいのに、値上げをすれば更に大変になると思う。
- 医療機関が身近にあることは、ありがたいことだと思う。特定検診を受けたら、保健センターで説明を聞けるのもありがたいが、聞きに来ている方に男性が少ないように思う。
- 皆が健康になれば医療費は抑えられるので、運動への意識が高くなるような事業など、保険料の値上げとは別の見方も考えていただきたい。
- 現在の1億3,000万円の不足は累積されるのか。
- 今後の世代のこともあるので、負担としてはきつく感じるが、一気に上げて、赤字を解消すべきだと思う。また、私はこの会議で説明を聞いたので納得するが、市民の方には十分に説明が必要だと思う。
- 値上げするときには、説明はあるのか。
- ある一定の人の医療費を、一般会計の税金でまかなうのはおかしいと思う。
- 保険料の滞納額は現在いくらか。未納分を徴収すれば赤字は埋まるのか。
- 収納率自体は上がってきている。滞納処分の職員研修を行うなど努力はしていると思う。
- 医療費が高ければ、保険料も高くなるということなら、医療費の適正化に気を付けなければならない。